

第1学年 生活科学学習指導案

日時 平成17年10月5日(水) 2校時

児童 男子3名 女子7名 計10名

指導者 金野 久美子

1 単元名 「すいすいさわやか きもちがいいね」

2 単元のねらい

秋を探したり調べたりする活動を通して季節の変化に関心をもつ。(関心・意欲・態度)

春や夏と比べながら秋の自然の様子をとらえるとともに、秋の実や葉を使っていろいろなものを工夫して作ることができる。(思考・表現)

秋の樹木や草花、虫などが夏の頃とは違ってきたことや、それらを使って遊ぶことの楽しさに気づく。(気づき)

3 単元について

(1) 児童について

児童はこれまで、校庭や学校の畑、学校の周りを探検して、草花を使った遊びや虫探し、砂や水を使った遊びなどを経験し、自然と関わってきた。

「ぼかぼかのはらにとびだそう」の単元では、春の草花を使った遊びをする中で、「草花で商品を作って、草花おみせを開きたい。」という子どもの思いを受け、2年生を招待して草花おみせを開いた。進んで遊びに取り組み、友達と仲良く遊べた楽しさを感じることができた。

「ぎらぎらおひさまげんきいっぱい」の単元では、「川を作り、笹舟を浮かばせたい」という思いをもって、砂場での川づくりに取り組んだ。水が砂に染み込まないようにとビニールを敷く工夫や、水は高いところから低いところに流れるという気づきが見られた。川づくりでは、力を合わせて取り組むことの大切さや、友達と一緒に活動することの楽しさを感じることができた。

また、あさがおやさつまいもの成長に期待をもって世話をしたり、畑から梅の実をつんで、ジュースを作ったりと、自然に愛着をもち進んで関わろうとする姿が見られた。

今後は、夢中で活動して、じっくりと対象に関わる態度や、自分のやってみたいことや挑戦したいことなどの思いや願いをもち、学級全体に伝えながら活動を深めたり広げたりしようとする態度を育てていきたい。

(2) 単元について

本単元は、学習指導要領生活科の内容(5)「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする」及び内容(6)「身の回りの自然を利用したり、身近にあるものを使ったりなどして遊びを工夫し、みんなで遊びを楽しむことができるようにする」を受けて設定した。

単元の導入として、学校の周りを歩き、春や夏との違いについて話し合い、秋に目を向けさせる。木の葉の色の違い、木の実、虫の音などに気づくことが予想される。次に、秋の野原で遊びながら、木の葉、木の実、虫などの自然をさらに身近に感じることで、秋への気づきを深める。これから、こんな遊びをしたいな、こんなことをやってみたいな、という思いを膨らませるようにする。それらの思いを受けて、虫探しをしたり、木の実や木の葉を使って作品やおもちゃを作ったりして遊ぶ。夢中になって活動するなかで、「もっとこうしたい。」と工夫する姿や、春の

「草花おみせ」を想起して、「1年生以外のみんなにも、見せたいな。」という思いをもつことが期待される。

本單元において、子どもが向かう大きな目標として、上折壁児童館の子どもたちを招待し、「たからものたいかい」を開くことを設定する。本学級の児童の6割は、上折壁児童館の出身であり、児童館の子どもに対して好意をもっている。春の探検の時も、帰り道にある児童館に立ち寄り、採った草花を児童館の子どもたちにあげる姿が見られた。そのようなことから、「児童館のみんなを招待したい。」という気持ちが引き出しやすいと考える。準備にあたっては、「楽しんでもらえるように」と考えながら、ひとりひとりが思いをもって取り組めるようにしたい。また、地域の秋の行事として「室根大祭」を紹介し、自分たちでも「たからものたいかい」を盛り上げていこうという思いをもたせたい。児童館の子どもたちを招待しての「たからものたいかい」では、年下の友達にどう接するかを考えながら、相手の立場になって世話ができるようにさせたい。

(3) 指導について

「であう」段階では、春、夏に探検した場所である学校の畑や学校周辺を歩き、春や夏との違いを感じ、話し合うことで、どこが変わってきたのかを具体的に出し合い、秋の單元への導入を図りたい。季節の流れを感じさせるきっかけのひとつとして、畑の梅の木が挙げられる。子どもたちは、春に花が咲いているのを観察し、夏に梅の実を摘んでいる。この時期の梅の木を観察させることを意図的に取り入れたい。このように、秋に目を向けさせることで、これから秋の自然と関わっていくことに対する期待感をもたせたい。

「かかわる」段階の初めは、秋を体いっぱい、もっと身近に感じられるように、秋の野原で思い思いに遊ばせたい。それだけでなく、「あきのビンゴ」を使って、木の実、木の葉、秋の虫などいろいろなものに目を向けさせるようにしたり、野原で「かくれんぼ」をすることで、自然を間近に観察するきっかけとなるようにしたりと意図した遊びにも取り組ませたい。「これから、こんなことをしたいな。」という子どもの思いをくみ上げながら、虫探しをしたり、木の実や木の葉を使った遊びに生かしていきたい。木の実や木の葉を使った遊びでは、遊びの幅が広がるように、遊びの図鑑を準備し、アイデアを伝えるようにする。子ども自らが考え出したり、発展させたりした遊びがあれば、遊びの図鑑にページを加えさせ、遊びの共有化を図りたい。夢中になって活動し、秋の自然物で遊ぶ楽しさを感じた後で、1年生以外の友達に遊びを紹介したいという思いがもてるよう声を掛けたい。そこで、児童館の子どもたちを招待して、「たからものたいかい」を開くことを伝え、意欲の向上と持続を図りながら準備に取り組んでいけるようにしたい。

「たからものたいかい」の準備においては、「～さんに喜んでほしいな。」「小さい子でも、楽しめるようにしたいな。」など、ひとりひとりに思いをもたせ、継続させたい。そのために、子どもの思いを書いた紙を教室に掲示し、自分がどのような思いをもって準備をしているのかを振り返りながら活動に取り組ませる。準備の段階では、1時間の終わりに、次の時間にどんなことをしたいかを決めさせ、必要な材料を家から持ってきたり、作り方を考えてきたりするなど、次時に期待と見通しをもって取り組めるようにしたい。

「たからものたいかい」では、「児童館の子どもたちに楽しんでもらえるように」というめあてを確認し、相手の立場になって、分かりやすく遊び方を説明したり、作ったものを紹介したりできるようにする。

「ふりかえる」段階では、単元の流れを振り返り、楽しかったことやできるようになったこと、友達が頑張っていたことなどをカードに書き、発表する。また、教師が、単元を通して成長した子どもの姿を見取り、伝えるようにし、満足感と次の單元への意欲を高めたい。そのために、振り返りカードの評価にあたっては、子どもの思いや姿を見取り、コメントを書くことで子どもに返すとともに、累積することにより、成長した子どもの姿を捉えられるようにしたい。

(4) 活動計画と評価(22時間)

流れ	小単元	学習活動	評価規準		
			関心・意欲・態度	思考・表現	気づき
であきあき	あきのつうがくる (2時間)	・学校の周りを歩き、春や夏と違っていることについて話し合う。	身の回りの自然の様子に目を向け、意欲的に春や夏と違っていることを見つけようとしている。		
か	あきののはら (3時間)	・秋の野原で遊びながら、草花や樹木などの自然の中から秋を見つける。	秋の野原で、進んで自然物に関わりながら遊ぼうとしている。	学校の周りの様子の変化を夏の頃と比べながら考えることができる。	秋の樹木や草花、虫などが夏の頃とは違ってきたことに気づいている。
	あきのむしあそび (2時間)	・虫の鳴き声を聞き取ったり、すみかを探したりして、虫探しをする。	虫の鳴き声に耳を傾け、興味をもって虫探しをしようとしている。	見つけた虫の特徴をとらえることができる。	秋の虫の鳴き声や生態に気づいている。
	あきのみやはのあそび (5時間)	・いろいろな木の実や落ち葉を集め、それらを使って遊んだり、造形を楽しんだりする。 (本時 2 / 5時間)	いろいろな木の実や木の葉に興味をもち、遊んだり飾ったりするものを進んで作ろうとしている。	いろいろな木の実や木の葉を使って遊んだり飾ったりするものを作ることができる。	木の実や木の葉を使って遊ぶことの楽しさに気づいている。 木の実や木の葉の種類や特徴に気づいている。
わ	たからものたいかいのじゅんぴ (7時間)	・たからもの大会の計画を立て、集めた木の実や木の葉を使って遊ぶものをつくり、たからもの大会の準備をするとともに、地域の秋の行事に興味・関心がもてるようにする。	たからもの大会で使うものを作ろうとしている。 友達と協力して、たからもの大会の準備をしようとしている。	工夫しながら、たからもの大会で使うものを作ることができる。 招待する人のことを考えながら、たからもの大会の準備をすることができる。	木の実や木の葉を使っているいろいろな遊びができることに気づいている。 地域ならではの秋の行事があることに気づいている。
る	あきのたからものたいかい (2時間)	・児童館の子どもたちを招待して、「あきのたからものたいかい」を行い、自分が作った遊ぶものを紹介したり遊ばせたりする。	招待した人を楽しんでもらうように声をかけたり遊び方を説明したりしている。	招待した人を楽しんでもらうような方法を考えることができる。	招待した人によるこんでもらえるようにするためには、いろいろな方法があることに気づいている。
ふりかえり	ともだちにつたえよう (1時間)	・学習を振り返り、楽しかったことやがんばったこと、気づいたことを友達に伝える。	学習を振り返り、楽しかったことやがんばったことを見つけてようとしている。	遊んで楽しかったことやがんばったこと、気づいたことをカードにまとめることができる。	自分ができるようになったことや、友達がかんばったことに気づいている。

4 本時の学習活動

(1) 活動名

あきのみやはのあそび (9 / 22 時間)

(2) ねらい

いろいろな木の実や木の葉を使って、遊んだり飾ったりするものを楽しく作ることができる。

(3) 評価規準と具体の評価規準

観点	評価規準 評価方法	具体の評価規準		支援を要する児童への具体的 手立て
		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	
関心・ 意欲・ 態度	いろいろな木の実や木の葉に興味をもち、遊んだり飾ったりするものを選んで作ろうとしている。 発言・行動観察	いろいろな木の実や木の葉の色や形に興味をもち、もっとこうしたいという思いをもちながら、遊んだり飾ったりするものを作ろうとしている。	いろいろな木の実や木の葉に興味をもち、遊んだり飾ったりするものを選んで作ろうとしている。	木の実や木の葉を使ってどんなものが作れそうかを考えさせ、アイデアを賞賛する。 また、アイデアを与えて、活動への意欲を高める。
思考・ 表現	いろいろな木の実や木の葉を使って遊んだり飾ったりするものを作ることができる。 行動観察・作品	いろいろな木の実や木の葉を使って、素材の特徴を生かしながら遊んだり飾ったりするものを作ることができる。	いろいろな木の実や木の葉を使って、遊んだり飾ったりするものを自分の思いをもって作ることができる。	友達の作品を紹介したり、遊びの図鑑を見せたりして、アイデアを与える。また、技術的なつまづきがある場合には、技術面のアドバイスを与える。

(4) 展開

段階	活動内容	指導上の留意点	評価	支援	準備物
つ か む 5 分	1 本時の活動内容を確認する。 本時の学習 <u>きのみやはでつくってあそぼう</u> ・何を作るか確認する。 ・終わる時間、片付ける時間、活動場所を確認する。	前時の終わりに、続きを作る子どもには「もっとこうしたい」という思いを、違うものに取り組む子どもには「これを作ってみよう」という思いをもたせて、本時の活動に期待と見通しをもって入れるようにする。 終わる時間、片付ける時間、活動場所を伝える。			・紙板書 (本時の学習)
か か わ る 3 5 分	2 木の実や木の葉で遊ぶ。 木の実を使ったもの ・こま ・マラカス ・やじろべえ ・人形 ・けん玉 ・ペンダント など 木の葉を使ったもの ・くびかざり ・かんむり ・ようふう など	どのようなことを考えながら作っているのかを見取ったり聞いたりしながら、素材を生かしているところを褒めたり、適切なアドバイスを与えたりする。 うまく作れない時には、すぐに投げ出さず、何度も挑戦したり、工夫したり、友達や教師に教えてもらったりすることで、完成するまで取り組ませたい。 いろいろな木の実や木の葉に興味をもち、遊んだり飾ったりするものを選んで作ろうとしている。 発言・行動観察 木の実や木の葉を使ってどんなものが作れそうかを考えさせ、アイデアを賞賛する。 いろいろな木の実や木の葉を使って、遊んだり飾ったりするものを作ることができる。 行動観察・作品 友達の作品を紹介したり、遊びの図鑑を見せたりして、アイデアを与える。また、技術的なつまづきがある場合には、技術面のアドバイスを与える。			・木の葉 ・木の実 ・遊びに使えるような材料 (教師が必要に応じて提示する)

5 分 か え る ふ り か え る 5 分	<p>3 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動して、気づいたことやがんばったこと、工夫したことなどを発表する。 <p>4 次の活動を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時も木の実や木の葉で遊ぶことを知り、次はどんなことをしてみたいかを発表する。 	<p>見取った子どもの気づきやがんばりや工夫など良かった姿を取り上げ、紹介する。</p> <p>次時も木の実や木の葉で遊ぶことを伝え、次時でしたいことを考えさせ、次の活動への期待を膨らませる。</p>	
--	--	--	--

(5) 板書計画

きのみやはでつくって あそぼう	やくそく
(子どもが作る予定のもの)	かたづけ ながいはり しゅうごう ながいはり